



改造カートリッジ (DL-103LCII)
で聴くバロック音楽

AAF C例会資料

2013/3/10

林 英彦

日本のカートリッジのベストセラーであるDENON DL-103は、放送局用ということもあり癖のない音質と安定性を持っている名器のひとつです。

これをグレードアップした製品が2, 3のオーディオサプライヤーから発売されていますが、オリジナリティーをもった物に仕上げようとして改造にチャレンジしたのが今回使用のカートリッジです。

改造内容：ハウジングを外し発電機構のみをドライカーボン製ベースに埋め込み。

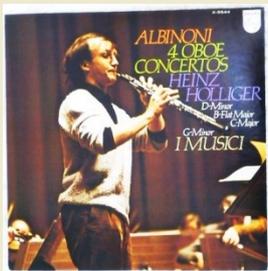
スタイラスを超楕円針にリチップ。発電機構部に制振シール貼付。

改造結果：あくまで主観ですが、トレース能力が向上し高低域共に音域が広がった様に感じます。

針圧を指定2.5gから1.6g前後まで下げることが出来ました。

鑑賞頂く音楽は、私の好きなジャンルのひとつであるバロック音楽から選曲いたしました。

1、アルビノーニ オーボエ協奏曲 ニ短調 作品9-2 PHILIPS X-5544 (12' 26")



【演奏】オーボエ：ハインツ・ホリガー イ・ムジチ合奏団

トマゾ・アルビノーニ (1671-1750)

ヴィヴァルディより7年早くヴェネチアで紙の製造販売業を営む裕福な商人の家に生まれる。

ヴァイオリニストと作曲そして自ら経営した声楽の学校での教授職で生計を立てていた。当時はオペラ作曲家として有名であったが、器楽作曲家としても活躍。

最初の協奏曲集(作品2)は後にヴィヴァルディーにも影響を与えたといわれる。

2、フランチェスコ・ドゥランテ 合奏協奏曲 ト短調 harmonia mundi URS-3162-H (12' 22")



【演奏】コレギウム・アウレウム合奏団

ヴァイオリン：フランツヨーゼフ・マイアー、ズラーネ・ラウテンバッツヒャ

ヴィオラ：ゲオルク・シュミット チェロ：アンゲリカ・マイ

フランチェスコ・ドゥランテ (1684-1755)

哲学者ジャン・ジャック・ルソーは彼を「イタリア随一の偉大なハーモニストであり、それはとりも直さず世界一だ」と絶賛している。

本合奏協奏曲は、ヴァイオリン2人、ビオラとチェロ各1人から構成される4人のソリストを中心としたコンチェルト・グロッツとなっている。

3、G サンマルティーニ 協奏曲へ長調 (リコーダ、弦楽器と通奏低音のための) EMI EAC-8003 (12' 28")



【演奏】リコーダー：デイビッド・マンロウ アカデミー室内合奏団

G・サンマルティーニ (1693-1751)

ミラノに生まれロンドンで没。

父親はフランス人のオーボエ奏者で、サンマルティーニもオーボエ奏者として1729ロンドンに渡り王立劇場で奏者を務めるかたわらオーボエの教師や作曲家として活躍。

4、J.S バッハ 旅立つ最愛の兄に思いを寄せるカプリッチョ BWV 992 TELEFUNKEN (12' 48")



【演奏】チェンバロ：グスタフ・レオンハルト 使用楽器：アントワープ 1745 のコピー

J S バッハ (1685-1750)

本曲は、バッハが19歳のとき、次兄ヨーハン・ヤコブがポーランド駐在のスウェーデン国王カール12世親衛隊のオーボエ奏者として赴任することになり、その旅立ちをめぐって作曲された。

家族の一人が家を去り異国に赴くその旅立ちをめぐる情景をやさしく楽しく描写したもので、六つの楽章に対してドイツ語で表題が与えられている。